



吸蜜中の成虫

モンキアゲハの初飛来

矢田 敦子

昨年9月末、庭のミカンの木にモンキアゲハがはじめて飛来し産卵をした。2令幼虫の時に採取して飼育したところ、10月9日に3令、10月13日に4令、10月20日に5令、11月1日に前蛹、11月4日に蛹になり、その後は戸外で越冬し、今年5月5日に羽化した(♂)。これで庭のミカンの木には、毎年産卵していくアゲハ、クロアゲハ、ナガサキアゲハにモンキアゲハが加わり、4種類の蝶が飛来したことになった。

モンキアゲハは林や里山の辺を飛ぶものと思っていただけに、今年も産卵してくれる事を大いに期待したが、9月末になっても幼虫は見つからない。やはり一度きりの偶然だったのだろうか。

(YADA ATSUKO 加古川市平岡町新在家2159-16)

白色化コオロギの発見

矢田 敦子

8月23日、庭の雑草の中に頭から羽まで全身乳白色のコオロギの成虫を見つけた。白色化した昆虫を見たのは初めてなので驚き、感動した。

このように突然変異で目に付きやすくなった生物は天敵に狙われやすいのだろうか、それとも逆に敬遠されて生き延びるのだろうかと考えさせられてしまった。

(YADA ATSUKO 加古川市平岡町新在家2159-16)

児童公園の砂場にハナダカバチが発生 山口 福男

2002年6月、神戸市西部公園事務所から蜂の処分について相談を受け、22日に現地調査したところ、ハナダカバチ *Bembix niponica* F.Smith であった。場所は、神戸市須磨区離宮前町の児童公園の約24平方メートルの小さな砂場であった。目まぐるしく地表を飛び交うハチは個体数が多いように見えたが、捕虫網ですくい取ってみると5匹(すべて雄)だけであった。事務所の職員には危険性のないことを報告しておいたが、蜂の仲間であることだけで住民の理解を得ることができず駆除処分されてしまった。

ハナダカバチの生態については、岩田久仁雄氏によって詳しく報告されているが、これによると本種は分布は広いが、どこにでもいる普通種でなく、巣を作るにはかなりの深さに堆積した砂地が必要とされている。岩田氏はこのような場所は開発により消滅しやすく、本種が都市近郊で生き残れるのはかなり難しいのではと危惧されていた。しかし、ハナダカバチは岩田氏が心配されたほどに繊細な種ではなく、大都会の住宅地であっても条件が整えば増殖できるしたたかさをもっている種のように思える。

(YAMAGUCHI FUKUO)

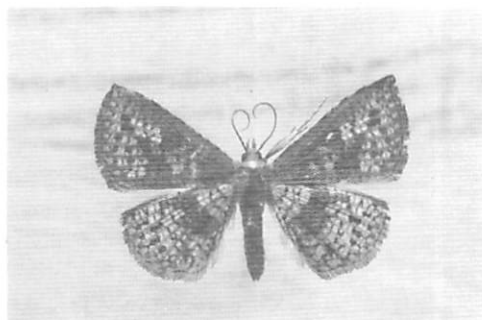
神戸市須磨区神ノ谷3丁目6-4)

芦屋市で記録した注目すべき蛾

西 隆広

古い記録を含むが、兵庫県芦屋市以内で記録した注目すべき蛾を報告する。報告で示した兵庫県での記録は本会の高島昭氏による。

クロモンウスチャヒメジャク *Anisodes absconditaria* 兵庫県では南淡町での記録がある。芦屋市での記録は次の1例である。



クロモンウスチャヒメジャク